

「万成石」を用いて
木橋意匠を受け継ぐ

無 垢 橋



岡山県久米南町

岡山県久米郡久米南町里方の誕生寺は、浄土宗の創設者法然上人誕生の地で、建久4年（1193）に法力房蓮生が、師である法然上人の命を受けて、生家を寺院に改めたものといわれています。

この誕生寺境内に、大正9年（1920）に建設された登録文化財「無垢橋」が架かっています。石橋でありながら見た目は木造の橋とかわらない姿に独特な印象を受け、比較的新しい石造橋の例として貴重な橋と考えられます。

無垢橋は境内の南を流れる片目川に架かる橋長7.3m、幅員2.6mの石造桁橋で、桁は3列に3間を掛け渡らせています。日本の銘石のひとつといわれる「万成石」を用い、擬宝珠の付けられた柄柱、丸く加工された高欄をはじめ、先に架けられていた木橋を模したのでしょうか。特に、桁の上に乗せられたように見える丸太状の石は、高欄から外側のみの長さしかなく、明らかに装飾となっています。当初の築造年代は不明ですが、現在の親柱には「石匠高松市太田與平」と刻まれています。因みに太田與平が高松出身ということは、銘石「庵治石」の産地でもあり、14世紀には石清水八幡宮の宝殿、弊殿、拝殿の再建にあたり切り石が送られています。

誕生寺のそばには、法然上人の弟子・熊谷次郎直実が、法然上人自作の木像（誕生寺の本尊）を背負って上人の生誕地に到着し、喜びに号泣し念仏を唱えたことに由来する念仏橋がありました。残念ながら、中国鉄道（現・JR津山線）の建設に伴い移設・拡幅されたため、現在はRC桁橋に橋の4隅に宝珠を載せた石柱の親柱だけとなっていますが、この場所から正面の誕生寺を目にすると、熊谷次郎直実の思いが伝わってきます。

※万成石・・・岡山県岡山市北区の万成または矢坂地域から産出される角閃石黒雲母花崗岩。国産材の中でも、堅固で吸水率の低い石材で用途は墓石だけに留まらず、石彫、石碑、灯籠、建築材、公園の造形など幅広く使われている。



登録有形文化財「無垢橋」（L＝7.3m、W＝2.6m）

橋の形状は、擬宝珠の付いた柄柱、丸く加工された高欄など、木橋の材料をそっくり石に置き換えたように造られている

■位置図



重要文化財 御影堂



片目川に架かる無垢橋（L＝7mの石造方丈橋）
川名は保延7年（1141）三原内武者定明の夜襲時、9歳の勢至丸（法然上人）が弓で定明の右目を射たことによる



念仏橋（石桁橋）建久4（1193）以前親柱（江戸期？）のみ残る／法然上人の弟子・熊谷次郎直実が、法然上人自作の木像（誕生寺の本尊）を背負って上人の生誕地に到着し、喜びに号泣し念仏を唱えたことに由来する